

AHP手法による早池峰エコミュージアム代替案の評価について

岩手大学工学部 正 員 安藤 昭
 岩手大学大学院 学生員 ○西岡 隆男
 岩手大学大学院 学生員 大泉 剛

1. はじめに

近年、大規模開発、及び資本を伴わない地域振興策として、「エコミュージアム」が注目を集めている。エコミュージアムは博物館学者アンリ・リヴィエールが考案した「一つの文化圏を対象領域とし、行政と住民のパートナーシップに基づく組織により、自然・文化・産業といった地域遺産を現地において保存し、育成し、展示することを通して地域社会の発展を目指すとする新しい理念を持った博物館」であり、地域の総合的復興の核として期待されている。

エコミュージアムに関する既存の研究としては、フランス他の先進地域の事例分析、安藤等の北上川銀河博物館構想等の日本型エコミュージアムについての方法論の枠組みの提案などが挙げられるが、エコミュージアムの立ち上げに関する研究は、極めて少ない。

本研究は、岩手県の大迫町において計画されている「早池峰エコミュージアム」の、効果的な展開手法における基礎的研究として、エコミュージアムの機能的分類に基づいた代替案を提案し、AHPを用いて、地域振興の視点から、代替案の評価を行うものである。

2. 調査の概要

(1) エコミュージアム代替案の提案

フランスのパス・セヌ・エコミュージアム前館長アラン・ジュベール氏のエコミュージアムの機能別分類基準を下敷きにして、エコミュージアム代替案4案を提案した。代替案4案の内容は以下の通りである。

・研究・教育を配慮したエコミュージアム

地域住民の生活と環境に関する史的研究をすすめるとともに、住民が身近な社会や自然を考える場を提供するエコミュージアム

・地域遺産の保存を配慮したエコミュージアム

地域内に分布する地域遺産を保護し、次世代に受け

継いでいくことを目的とするエコミュージアム

・住民の参画を配慮したエコミュージアム

住民の自治的意識を向上させ、地位づくりに多くの住民が参加できるような住民の連帯・統合を目的とするエコミュージアム

・経済発展に配慮したエコミュージアム

地域の雇用の場を生み出し、産業の振興を図る等、地域経済の発展を目的とするエコミュージアム

(2) 調査方法

エコミュージアム代替案の評価を行うために、研究者（岩手大学工学部建設環境工学科の教官2名、技官1名、大学院生2名）5名、5回にわたり催された「エコミュージアム勉強会」に出席したダム事務所職員（行政）5名、同じく出席した大迫町民（住民）5名の計15名を被験者として、調査を行った。調査期間は平成10年11月18日から平成11年1月7日である。

(3) 解析手法について

調査の集計結果をAHPを用いて、早池峰エコミュージアム代替案を大迫町の地域振興の視点から評価を行った。なお、階層図の評価項目は、評価基準1として産業面、生活面、環境面における地域振興3項目を、評価基準2として評価基準1の3項目を細分化した計9項目を選定した。図-1に階層図を示す。

3. 解析結果及び考察

(1) 大迫町における地域振興について

大迫町の地域振興において、「観光業の発展」「自然遺産の保全」「伝統・文化の保全」の重要度の値が高く、「工業の発展」「商業の発展」「環境教育の促進」の重要度の値が低いことがわかる。このことから、大迫町が地域遺産の保全に努め、その地域遺産を産業（観光業）にいかして地域振興を図ろうとしていることが

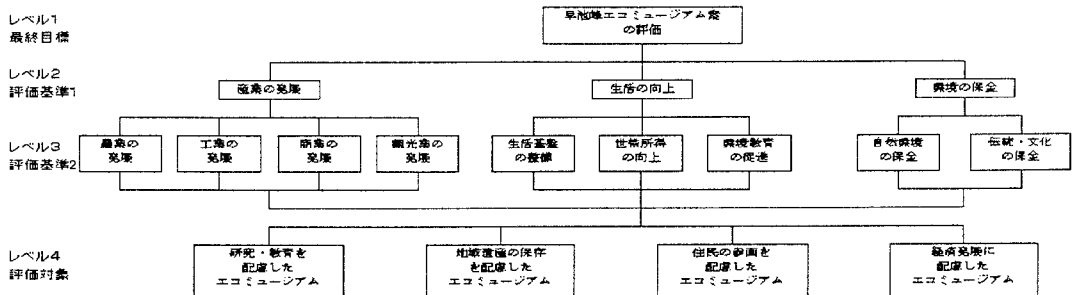


図-1 階層図

わかる。(図-2 参照)

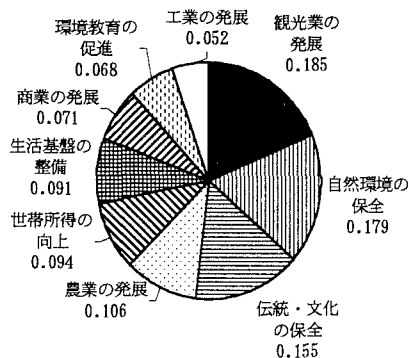


図-2 大迫町における地域振興 (全体)

(2) 地域振興とエコミュージアム案の関連について

「工業の発展」「商業の発展」「生活基盤の整備」「世帯所得の向上」を考慮した場合、「経済発展に配慮したエコミュージアム」の重要度の値が高い。そして、「自然環境の保全」「伝統・文化の保全」を考慮した場合、「地域遺産の保全を配慮したエコミュージアム」の重要度の値が高い。

また、「観光業の発展」を考慮した場合、「地域遺産の保存を配慮したエコミュージアム」の重要度の値は、「農業の発展」「工業の発展」「商業の発展」の重要度の値の倍以上の値をとっていることがわかる。

さらに、「環境教育の促進」を考慮した場合、「研究・教育を配慮したエコミュージアム」は、他の場合と比較し、極めて重要度が高くなっていることがわかる。(図-3 参照)

(3) 大迫町の地域振興からみたエコミュージアム案の評価について (総合評価)

大迫町の地域振興からみたエコミュージアムの評価順位は、1位「地域遺産の保存を配慮したエコミュージアム」、2位「経済発展に配慮したエコミュージアム」、3位「住民の参画を配慮したエコミュージアム」、4位「研究・教育を配慮したエコミュージアム」とな

レベル1
最終目標

レベル2
評価基準1

レベル3
評価基準2

レベル4
評価対象

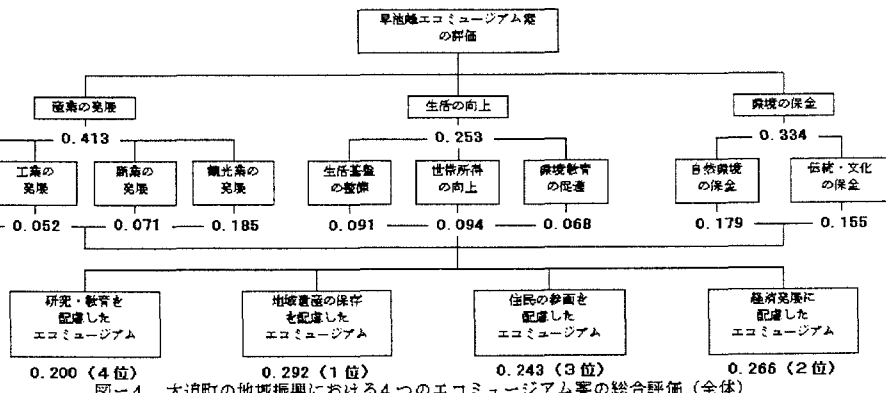


図-4 大迫町の地域振興における4つのエコミュージアム案の総合評価 (全体)

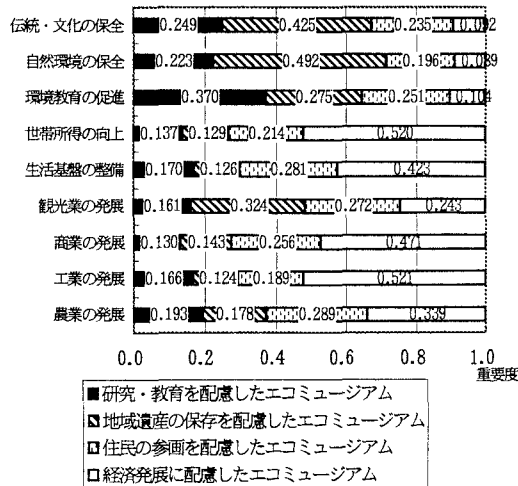


図-3 各地域振興とエコミュージアム案の関連 (全体)

った。図-3が示すように「地域遺産の保存を配慮したエコミュージアム」は、「自然環境の保全」を考慮した場合を含む3つの場合にのみ重要度が高くなるにもかかわらず、総合評価において「地域遺産の保存を配慮したエコミュージアム」の評価が最も高いのは、図-2からわかるように大迫町の地域振興において、その「観光業の発展」「自然環境の保全」「伝統・文化の保全」の重要度の値が高かったためである。

また、4案の重要度には大きな差はみられず、4案を総合的に勘案することが必要となろう。以上のことから、大迫町においてエコミュージアムを効果的に展開する場合、地域遺産の保全を中心に据え、住民の参加・協力を得て、観光業の発展及び地域環境の保全を図るエコミュージアムが望まれていることがわかる。

(図-4 参照)

参考文献

- 1) 日本エコミュージアム研究会：エコミュージアム理念と活動・牧野出版
- 2) 刀根 薫：ゲーム感覚意志決定法—AHP入門—、日科技連出版